

令和6年度 養豚・養鶏研究部試験研究概要

研究課題	研究期間	研 究 概 要	区分	共同研究機関
【養豚】 抗病性能を有する種豚による新たな養豚生産基盤の構築	R6～R10	豚慢性疾病（主に肺炎）の発生や重症化と免疫等に関連する抗病性DNAマーカーとの関連を明らかにし、県有種豚の抗病性を高める改良を行う。	革新的経営環境強化プロ	農研機構生物機能利用研究部門、動物衛生研究部門、国立大学法人東北大学
【環境】 豚ふん堆肥を主体とした新たな肥料の開発と堆肥利用促進ツールの開発	R6～R9	堆肥の肥料としての活用を促進するため、窒素やカリを添加しペレット・粒状化肥料する製造技術の開発及び堆肥の時期別の窒素発現量を計算可能とするモデルを作成する。	みどり戦略プロ	県農業技術センター
【養豚】 養豚業における抗菌薬の使用量を低減する新たな飼養管理技術の開発	R3～R7	肥育豚の離乳期以降の発育ステージにおいて抗菌薬の使用量を低減した新たな飼養管理技術を確立する。本研究により治療及び疾病予防を目的とした抗菌薬の使用量低減、薬剤耐性菌の発生抑制を図る。	地域密着	【一部外資】 日本中央競馬会畜産振興事業（R3-R5） 農研機構生物機能利用研究部門・動物衛生研究部門 東北大学
【養豚】 抗病性指標の評価を活用した健全養豚実現体系の構築	R4～R8	養豚における健全な飼養管理体系を確立するため、抗病性育種（疾病抵抗性を指標とした家畜の遺伝的改良）やイムノバイオティクス（腸管などの粘膜免疫を介して宿主に有益な機能を発揮するプロバイオティクス）等の飼料添加物の活用により、豚が本来持つ自然免疫機能を底上げを図る。	地域密着	【外資】 イノベーション創出強化研究推進事業 開発研究ステージ（産学連携構築型）東北大学
【養豚】 次世代型の豚遺伝資源保存技術の開発	R6～R9	家畜伝染病による殺処分から能力の高い種豚群を遺伝資源として効率的に保存・再構築するため、低品質卵子を活用した豚遺伝資源保存技術を開発する。	地域密着	岐阜大学
【養鶏】 ゲノム育種による肉用奥美濃古地鶏の増体性および食味性の改良	R2～R6	増体性および食味性に関する遺伝子マーカー情報を活用し、奥美濃古地鶏の3原種鶏群についてゲノム育種を行い、食味性および増体性を向上させ、地鶏の安定的な生産体系を確立する。これらにより他の国産鶏肉および外国産鶏肉との差別化を図る。	デザインプロ	農研機構
【養鶏】 肉用奥美濃古地鶏原種鶏群の改良および雄系原種鶏の作出に関する研究	R2～R6	奥美濃古地鶏原種鶏群の能力向上を目指して育種改良を行い、需要に応じて種鶏用種卵を供給することにより生産振興に貢献する。また雄系原種鶏は長年閉鎖鶏群で育種改良してきたことから、今後も安定的な生産を可能にするため、新たな雄系の開発を目指す。	地域密着	
【養鶏】 高・低病原性鳥インフルエンザ等の危機管理に対応する遺伝資源保護技術の確立—始原生殖細胞（PGCs）凍結保存技術等の活用—	R4～R8	鳥インフルエンザ等により貴重な遺伝資源が消失してしまうリスクを回避するための方法として①生体の分散飼育、②種卵の避難、③凍結精液保存および④PGCs凍結保存技術がある。現在は②と③により遺伝資源の保存を行っており、今後はPGCs凍結保存技術の習得、②～④の技術について長所・短所を検証しながら、これらの技術を活用した危機管理のための遺伝資源保存技術を確立する。	地域密着	
種豚再造成事業	H30～	養豚研究部での豚熱発生により種豚も含め全頭殺処分され、さらにポーノブラウン種豚飼養農家での豚熱も続発した。これを受け、当部の飼養施設が整うまでの間、ポーノブラウンの遺伝資源を守るために、ポーノブラウン種豚飼養農家に種豚の維持管理を委託するとともに、県内養豚農家から導入したポーノブラウン種豚を海津市内の施設で隔離飼育するなど、種豚再造成に向けた取り組みを行っている。		